

受託事業名  
山古志闘牛場観覧席等改修工事  
実施設計業務

発注者 大原技術株式会社  
 受託期間 平成20年12月11日～平成21年3月18日  
 プロジェクト主査 山下秀之  
 デザイン 山下秀之  
 設計 山下秀之、朝野剛、山下真理子、廣田真治、武井奈津美  
 構造設計・構造計算書 江尻建築構造設計事務所(江尻憲泰)  
 スペック作成 申請業務 山下真理子、朝野剛  
 法規・行政対応 山下真理子  
 電気設備設計 本間設備設計(本間政行)  
 積算・見積 朝野剛  
 CGパース 廣田真治  
 模型製作・模型写真 柿崎哉哉、諏佐圭太郎、渡辺宣一、ケ・エム・イフテカル タンザル<sup>(M)</sup>

□ 計画概要

建築用途 増築:屋外観覧席(上げ床)  
 新築:メモリアル・ギャラリー(擁壁)、見晴し台  
 工事予定期間 2009.6.9 ~ 2009.9.30  
 主体構造 鉄筋コンクリート造  
 主要仕上げ材料 コンクリート打放し上、上げ裏ボードウォーク張り  
 黒御影石サンドブラスト&ジェットバーナー仕上  
 新しい瓦状の敷  
 高硬度・高耐候性印刷写真パネル<sup>(D)</sup>  
 建築面積 323.86m<sup>2</sup>  
 延べ床面積 323.86m<sup>2</sup>  
 46

建物階段A1(建築基準法上)  
 巾/1400mm(≧1400)  
 踏面/375mm(≧260)  
 蹴上/150mm(≦180)  
 高低差/1500mm

建物階段A2(建築基準法上)  
 巾/1400mm(≧1400)  
 踏面/375mm(≧260)  
 蹴上/150mm(≦180)  
 高低差/2100mm

□ はじめに

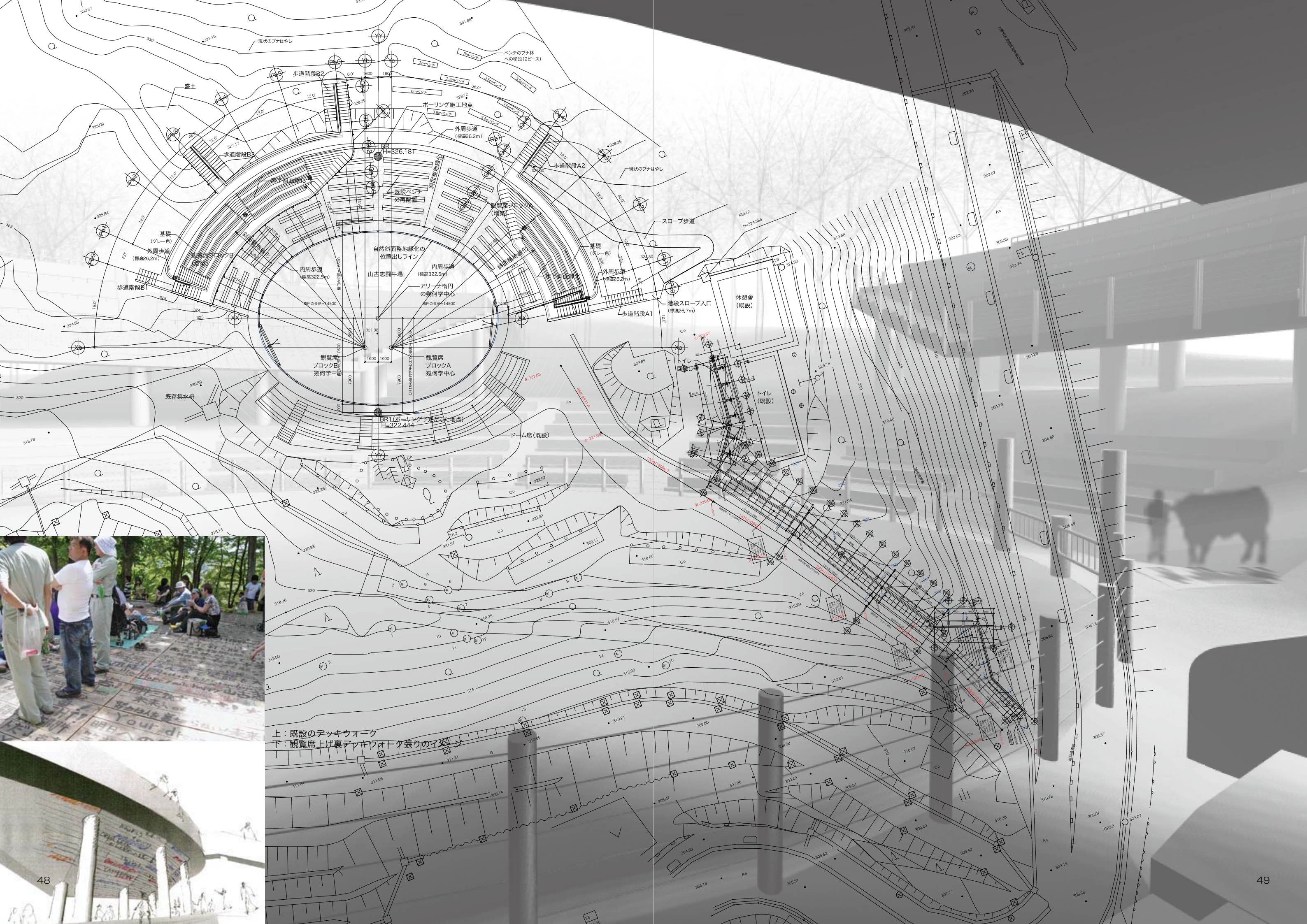
この業務は、闘牛運営者による2つの要望、「雨をしのぐ場所が必要」と「観客数の増加を見込みたい」を実現する計画を、実施設計するものです(マスタープランニングの詳細は長岡造形大学デザイン研究開発センター平成19年度活動報告書を参照)。

□ 設計概要

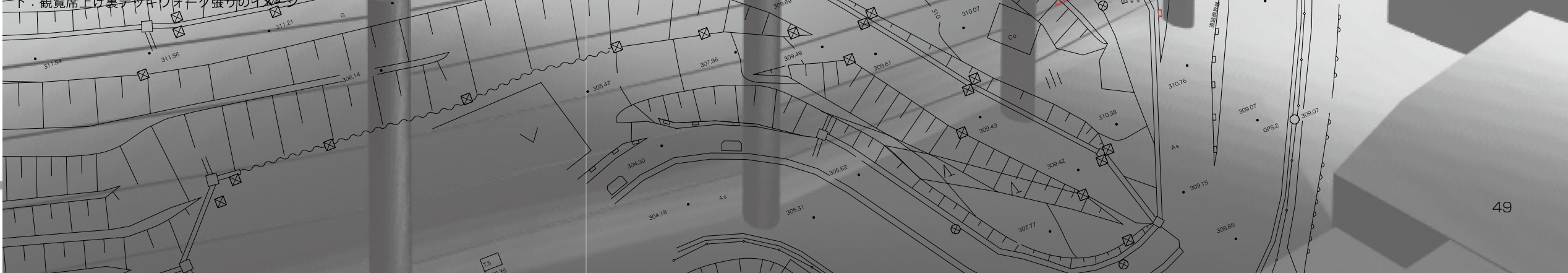
スロープ歩道:コンクリート舗装t70  
 豆砂利洗い出し仕上げ  
 中心増築する観覧席により、かねてから懸念していたブナ林の景観阻害については、観覧席を左右2つに分断し、その真ん中をブナ林に向けて大胆に開くというデザインで解決を試みた。  
 フローアップの観覧席(ゆゆうのひげ)は、観覧席の上げ裏を、左下隅のイメージにあるようにボードウォークで仕上げることにした。また、全長40mのメモリアルギャラリーを提案した。南総里見八犬伝の錦絵からはじまり、現在までの山古志の牛の角突きやの伝統と歴史を、すべて白黒の画像パネルで表現できるようにした。

□ 後日談

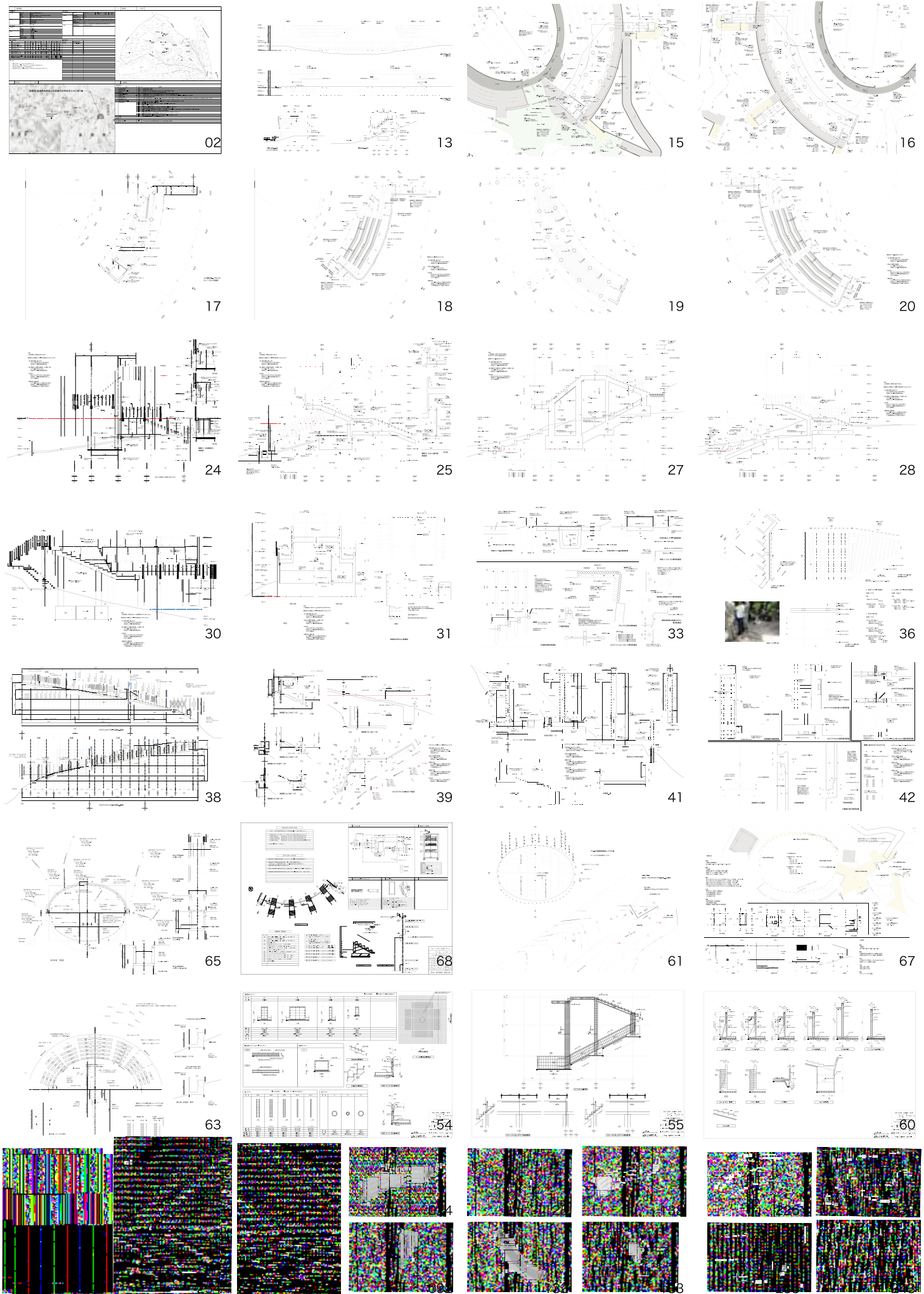
天皇后が復興の山古志を視察され、牛の角突きやの練習風景をご覧になられた時のお写真を、メモリアルギャラリーに展示できればと願っていた。しかし、管理できない屋外展示は無理とのことだった。実はその後の建設期間中に、天皇后の歌碑建立の計画が立ち上がり、ちょうどその開いたブナ林の中央高い位置に設置することができた。アリーナに立って見上げると、まるで天皇后に見守っていただいているかのようなのである。あたかも、歌碑の存在ゆえに観覧席を2手に分けたように見えるが、予期せぬことは、実はなくてはならないことだったように思える。南総里見八犬伝の錦絵から、天皇后の歌碑まで、壮大なストーリーができあがる。



上：既設のデッキウォーク  
下：観覧席上裏デッキウォーク張りのイメージ







左: 実施設計図面・構造計算書の一部  
右: 設計補足書の一部

メモリアルギャラリー

